

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応募者に関する情報

記入日：2012年11月30日

応募者情報	
応募 団体名	(フリガナ) イワヤ カブシキガイシャ
	(団体名) イワヤ株式会社 ※協働プロジェクトでの応募の場合は、代表団体名以下プロジェクトに参加している主な団体名をご記入下さい。
	団体名： 同上
	所在地： 〒121-8520 東京都足立区梅島 2-14-7
	部署名： 財務総務課
	役職名： 取締役 CFO
	氏名： 庄司 泰弘
	TEL： 03-3889-6111 FAX： 3848-1880
	E-Mail： info@iwaya.co.jp
ホームページ	http://www.iwaya.co.jp
<p>応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大2000字入力できます。詳細は別紙添付可）</p> <p>玩具の製造販売業</p> <p>1923年から動く動物玩具の開発、製造に携わっています。戦後は多くの国に玩具を輸出し、IWAYAのブランド名は海外でも浸透しています。</p> <p>ゼンマイ動力、電池を使つてのモーター動力、近年ではソーラー電池で動くモーター動力を使った玩具の開発、製造、販売を行っています。</p> <p>長年培った技術力と最新の電子技術等を使い、付加価値の高い商品などにも取り組んでいます。</p> <p>一方で子どもたちの玩具の世界から消えてなくなる事がないよう、ゼンマイを使った商品の販売も行っています。また、子どもたちに木のぬくもりに触れてもらう為に木製で動くパズルやFSCの森の木を使った商品の開発にも取り組んでいます。</p> <p>製造拠点は海外に移転していますが、玩具の企画、試作、設計等の開発課、海外向け営業の貿易課、国内向け営業の営業課等を事業所内に有し、日本国内のみならず海外にも楽しいおもちゃを提供しています。</p>	

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data_list.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

カーボン・オフセット認証を取得済みの活動については、認証番号もあわせて記載下さい。

事業活動のカーボンニュートラル化（カーボンニュートラル認証および計画登録申請準備中）

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の4分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver. 1.1)」に基づく分類

http://www.jcs.go.jp/pdf/document/ki_jun.pdf

<カーボン・オフセット対象・・バウンダリ>

カーボン・オフセットの取組内容に関して、オフセットの対象範囲をお書きください。

【例】3①-1に記載した算定範囲と同じ or 算定範囲のうち、○○、○○の部分に関してカーボン・オフセットの対象とした

自社事業所における電気、ガスの使用量の全量。
事業活動に使用する車両の燃料使用量の全量。

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

カーボン・オフセットの実施期間についてお書きください。その際、201

0年1月1日以降にカーボン・オフセットを実施継続していた事例または2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを開始した事例であることが応募にあたっての必要要件となりますので、御注意ください。

【例】2009年4月1日から2009年10月31日までが取組の実施期間の場合⇒応募資格外

2009年4月1日から2012年3月31日までが取組の実施期間の場合⇒応募資格有

2012年3月15日以降、現在も継続中（終了時期未定）の場合 ⇒応募資格有

2008年4月1日から2012年3月31日まで実施
2012年4月1日以降、現在も継続中。

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

自社 HP 等、カーボン・オフセットの取組をウェブに掲載されている場合は、URL を記載願います。

<http://www.iwaya.jp/hp/Files2/smilegreen/CSRreport2011.pdf>

3. 1次審査項目

① 自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

カーボン・オフセットの取組内容に際して、排出量の算定についてお書きください。

(自己活動オフセット支援以外の場合)

①-1 排出量の算定方法及び算定範囲

自社事業所における電気、ガスの使用量の全量／事業活動に使用する車両の燃料使用量の全量
環境省の算定ガイドラインを用いて算定。

<算定式>

排出量 (t-CO₂) = Σ (エネルギー源別活動量 × エネルギー源別燃料種別排出係数)

<排出量>

2008年度総排出量 122 トン

2009年度総排出量 77 トン

2010年度総排出量 54 トン

2011年度総排出量 46 トン

①-2 排出量の算定に利用したデータ種類

電気使用量、ガス使用量、ガソリン使用量

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください(複数可)。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1. CO₂ 排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

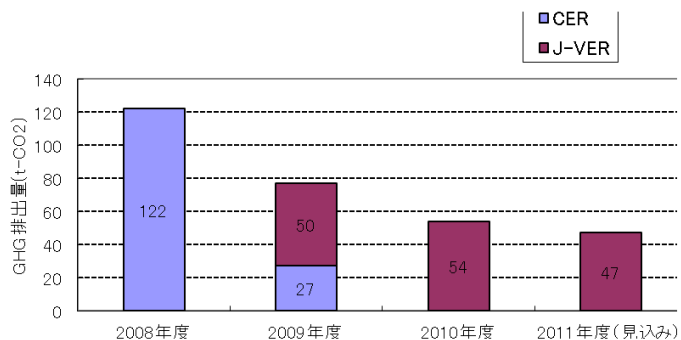
- 節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ
 その他(緑のカーテンの導入、社内省エネイベントの実施、廃棄物玩具の分別・再資源化)

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

使用したクレジット等の種類をお書きください。なお、異なるクレジットを併用した場合の各割合(%)についても記載してください。【例】J-VER(0%)、CER等(△%)など

2009年オフセット CER(100%)
2010年オフセット CER(35%)／J-VER(65%)
2011年オフセット J-VER(100%)
2012年オフセット J-VER(100%)



<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

使用したクレジット等の具体的な温室効果ガス削減・吸収プロジェクト名をお書きください。

記載例: ○○地域連携による間伐促進型森林づくり事業、
○○による木質ペレットボイラーでの温室効果ガス排出削減事業、
○○国における風力発電プロジェクト CDM プロジェクト番号・・・

2009年 ガンウォン風力発電プロジェクト(国連登録番号 0222)

2010年 インド タミルナドゥ風力発電バンドルプロジェクト(国連登録番号 0991)

フィリピン North Wind Bangui 湾プロジェクト(国連登録番号 0453)

長野県木質ペレットストーブの使用による J-VER プロジェクト(クレジット認証番号 0014001)

2011年 徳島県林業公社社有林森林吸収プロジェクト（クレジット認証番号 0047）
2012年 釜石地方森林組合による集約化施業（森林整備活動）を用いた温室効果ガス吸収事業（クレジット認証番号 0034）

＜カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況＞

取消、償却実施年月、もしくはその予定についてお書きください。
CER（国連登録番号 0222）⇒2009年9月償却
CER（国連登録番号 0991） / CER（国連登録番号 0453） / J-VER（クレジット認証番号 0014001）⇒2010年5月償却および無効化
J-VER（クレジット認証番号 0047）⇒2011年6月無効化
J-VER（クレジット認証番号 0034）⇒2012年5月無効化

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data1st.html

①. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

- ① CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。
- ② CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

下記のように CO2 排出削減の為の活動を行ってきました（写真は添付資料参照）。

●エネルギーの見える化による意識付け。

リアルタイムに消費電力を表示できる機器を導入し、節電意識を高めています。

●節電活動

小まめに電気を消す事やエアコン設定温度の徹底管理などはもちろんですが、ただ漠然とこれらを行うだけではなく、何が一番電気を使っているのかを把握し効率的に節電が行えるように各エリアごとの消費電力を計測するなどの工夫をしました。

●省エネ製品への切り替え

- ・省エネ照明への変更
- ・フォークリフトを電動の物に変更
- ・エアコンの省エネ製品への変更
- ・社用車をエコカーへ変更

《効果》

上記の施策により、2011 年度の CO2 排出量は 2008 年度比 62%減という大きな効果をあげています（2008 年度 122 トン、2009 年度 77 トン、2010 年度 54 トン、2011 年度 46 トン）

社員に CO2 排出削減の重要性の理解や協力を得る為に、弊社ではスマイルグリーンというスローガンを掲げ、これらの活動を事務的に行っていくのではなく、楽しくみんなで一緒にやっつけよう！という考えを重視しています。

エコポイント制度や ECO 検定の受験を支援するなど環境保全活動に積極的な社員を奨励しています。

2011 年夏には「省エネ頑張りました大賞」という社内コンテストを実施。各部署で節電活動を行い効果や感想をまとめ、審査表彰する物です。この効果で夏場の最大需要電力 50KW 以下の目標に対し、47KW に抑える事ができました。2012 年夏にも同様のコンテストを行い、ほぼ同様の結果（目標達成）が出ています。

2. カーボン・オフセットの内容

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください。

子ども達に夢を与えるおもちゃメーカーとして、カーボンオフセットを含め環境保全活動は積極的に行うべきだと考えています。こういった活動は現在行うべき活動であると共に将来も継続して行っていく必要があり、地球の将来を担う子ども達へ伝えていく事も非常に重要な事だと考えています。弊社の商品は将来を担う子ども達に向けた商品です。弊社の商品を通し、弊社に興味を持っていただく事で、カーボンオフセットや環境保全活動について知り、興味をもってもらいたいと思っております。毎年行われるおもちゃショー等のイベントでもカーボンオフセットの内容を展示したり CSR Report を配布し、玩具業界の方達や一般の方達に伝える努力をしております。

さらに弊社のような中小企業が排出量の全量をオフセットする事で、他の多くの中小企業が積極的にカーボンオフセットを行っていく事を期待しています。

今後さらに CO2 排出量の削減の活動を行い、それでも削減できなかった部分に対しては全量をカーボンオフセットしていきます。2011 年度から海外工場や海外輸送の排出量の把握も行い始めました。2013 年(2012 年度排出分)には海外輸送における CO2 排出量に関してもカーボンオフセットを開始する予定です。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する河川・湖沼をはじめとする内水面や土壌・大気あるいは生物多様性といった自然環境への配慮や保全などの環境の面での貢献
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する地域・社会への経済的便益や効果、第1次産業と他産業との連携促進、地域活性化や一村一品活動の拡大などの地域・社会の面での貢献
- ③自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する中小企業振興や産業基盤にとって重要な安定的なエネルギー供給・確保、環境と調和した市場の牽引などの産業振興の面での貢献
- ④自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献

弊社ではクレジットを選定する際に、そのプロジェクトのコベネフィットなどを勘案しプロジェクトを選んできました。

オフセット初年度から再生可能エネルギー等に着目し、これらのクレジットを使用する事で、世界のエネルギー問題解決に貢献してきました。また2010年からは日本国内のクレジットを使用し、国内の環境の改善、資源の有効活用に貢献しています。東日本大震災後の2012年には、震災で甚大な被害を受けた釜石市地方森林組合による集約化施業（森林整備活動）を用いた温室効果ガス吸収事業のJ-VERを使用しています。このJ-VERを使用する事で、森林の生物多様性の保全、被災地の雇用維持・復興に貢献しています。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫（イベントの開催やツールの開発等）についてアピールしてください。
- ②人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響も踏まえてその成果をアピールしてください。

弊社の事業活動の一環であり毎年開催されるおもちゃショー等のイベントでは大々的にエココーナーを作り、その中でカーボンオフセットやその他の環境保全活動、エコ玩具を展示し、業界関係者や一般公開日で来場された多くの子ども連れの皆様に活動を知っていただいています。また、地域の環境イベントにも出展するなど、広く一般の方々に取り組みを理解していただける様に活動しています。10月の足立区の地球環境フェアでは手回し発電の犬の玩具を特別に作成し、子ども達に楽しんでもらって興味を持ってもらってカーボンオフセットを含めたイワヤの活動を見ていただきました。堅苦しく環境保全活動というのを理解するのではなく、おもちゃメーカーらしい視点で楽しく理解し、楽しく活動し、楽しく伝えられるように工夫をしています。

楽しい活動の1つにオフィスで使えるエコPOP（電気は小まめに切りましょう！等のPOP）の作製という活動があります。おもちゃメーカーらしく弊社には、遊び心を持った社員や絵の得意な社員が多く在籍しています。そのため、とても楽しいPOPが作られています。このPOPは弊社ホームページからダウンロードできるようになっており、実際にダウンロードして活用していただいている取引先様もいらっしゃいます。同業界の中ではイワヤは環境問題に積極的な会社であるという声をいただくようになりました。

5. ストーリー性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。
- ②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫についてアピールしてください。また、低炭素社会の実現にどのように貢献しているのか、アピールしてください。

<弊社の取り組みの5つの特徴>

- ① 中小企業でもカーボンニュートラル化に取り組む**積極性**
- ② 子どもたちのための商品を扱う事業者だからこそ、将来の環境を守るという玩具事業とカーボンニュートラルの**親和性**
- ③ 社内の環境教育活動やエコ検定取得推進などの社内浸透力に裏打ちされた**排出削減実行力**
- ④ 一部の商品などを切り出したオフセットではなく、足元の事業活動のニュートラル化から取り組む**誠実さ**
- ⑤ 海外のクレジットから国内のクレジットにシフトしている**モデル性**

<ストーリー性>

弊社のカーボンオフセットは、まだ同業他社様が環境保全活動をほとんど行っていない時期から行ってきました。弊社社長の「子ども達に向けた商品を作っている企業だからこそ、子ども達の将来の環境を守る活動を行うべき」という想いから「おもちゃにとって電池は欠かせない物だが、使い捨ての電池を使用してしまう分、カーボンオフセットを行う事で環境に良い事をしていきたい」と考え、カーボンオフセットを始めました。カーボンオフセットを始めた初年度から、弊社ではカーボンニュートラル実現の為、自社事業所から排出された温室効果ガスの全量を対象にカーボンオフセットを行っています。

カーボンオフセットを始めた当初は、多くの社員はカーボンオフセットや環境問題についての知識を持

っていませんでした。その為、知識を付けるために、多くの社員がエコ検定を受験しました。現在（2012年4月の時点）では、エコ検定合格者は全社員の約50%にも上ります。社員の環境保全活動への知識が高まり、「スマイルグリーン」というスローガンを掲げ、どうせ環境保全課活動を行うのであれば楽しく活動しよう！という事になり、今ではさまざまな活動を行っています。

エネルギーの見える化、省電力製品への交換や節電活動、環境配慮型宅配業者の利用など温室効果ガス排出の削減に向けた取り組みを行ったり、会社遊休地への植樹活動で温室効果ガス吸収の為の活動も行っています。さらに、エコPOPの作製や社内節電イベントを行って表彰するなど楽しく活動できるように心がけています。これらの活動はFacebookやブログ等で発信され、イワヤホームページを見にきた方々に楽しく伝えられるようになっていきます。さらにおもちゃショーや環境イベントでも弊社の活動を紹介しています。また、地域の子供達に“おもちゃの構造やどうしたら壊れてしまうのか？”という講義をしています。これは、物を大事にする事が地球環境を考える第一歩という考えから行っている活動です。

弊社の事業内容は、将来を担うことも達に直接的に関わる物です。おもちゃを通して、様々な角度から子供達の環境教育に貢献できるのではないかと考えています。

中小企業ですので、いきなり大きな事はできません。しかし、小さな事からコツコツとしっかりと継続していく事がとても重要だと思えますし、そういった継続性が社会へ向けた波及にも繋がっていくと考えています。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDFの場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG等）お送りください。

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園3-1-8 芝公園アネックス7階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp